

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500480		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス八乙女 ユニット:すみれ		
所在地	宮城県仙台市泉区八乙女中央3丁目9-23		
自己評価作成日	令和2年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットの理念 1、感謝するところ 2、お一人お一人に寄り添う心 3、支え合えるチーム創りを掲げています。
コミュニケーションに消極的な入居者様も、話しかければ会話に花が咲きます。お邪魔にならない配慮はしながらも、職員から積極的に声をかけ、日々生き活きとした生活が送れるように心がけています。食事作りに力を入れ、入居者様の趣向を聞き出しながのメニュー作りも行なっています。味はもちろん見た目にも楽しい行事食を作るなどの演出が好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、地下鉄八乙女駅近くの静かな住宅地にある木造2階建て2ユニットの事業所である。周辺には保育園や小学校、郵便局、ケーキ屋などがある。敷地内には法人の本社があり、同法人の他事業所と研修などとおし交流を図っている。ユニット毎に理念を掲げ、すみれユニットは「感謝する心・お一人お一人に寄り添う心・支え合えるチーム創り」、たんぼぼユニットは「尊敬と感謝の心を大切に・利用者様の不安に寄り添う・皆が笑顔で過ごせる場所」で、支援に活かしている。行事食の献立作りや、食事作りは利用者の残存能力に応じ職員と一緒にしている。運営推進会議を通じて、地域合同の防災訓練や地域ケア会議、地域サロンへの参加など、地域での支え合いの関係構築ができています。コロナ禍でもできることを、町内会長や社協職員、地域包括職員と検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス八乙女 ）「ユニット名 すみれ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で唱和し、実践に努めている。	理念を年度末に振り返り、次年度に活かしている。毎朝ミーティングで唱和し、日々の実践の中で、感謝の言葉を伝え、人生の先輩として尊敬をもってケアに取り組んでいる。理念を念頭に、利用者、家族が望むケアプランを作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域との関わりは作れなかった。	町内会に加入し、社協が主催する地域サロンに参加したり、台風被害の際には、近隣の民家の片づけなどに協力した。コロナ禍で交流は限られているが、ハロウインの時に、保育園児が仮装し来訪してくれ、利用者や職員も一緒に仮装し、駐車場で交流することができた。また、地域の「健康まつり」の準備に関わり、リモートで参加した。	地域の中で、認知症介護のプロとして地域貢献することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、地域との関わりは作れなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、集合形式での推進会議は開催できなかったが、アンケートを通して意見を収集し、サービスの向上に活かせるよう心掛けた。	会議は、年間計画を基に奇数月に年6回、町内会長、地域包括職員、社協職員、利用者、家族、ホーム職員が参加し開催していた。3月以降は委員に資料を送付し意見を聞いている。参加者からアンケートを取り、リモート会議などを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適切に運営できるよう、運営において不明な点は都度仙台市に確認をとった。	地域包括職員が運営推進会議に参加しており、現在は会議資料をおして情報提供している。市には随時、運営上の不明な点などを相談している。市から感染対策に関する動画配信での研修案内があり、参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要事例が発生した際は仙台市に確認をした上で、身体拘束適正化委員会でも振り返りを行ないながら運営した。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催している。ユニット毎に課題を出し合い、検討シートを基に全職員で話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。外出要求が強い利用者には、職員が同行し庭に出て外気浴などをして気分転換をしている。玄関の施錠は21時から翌朝5時までで、日中は利用者の安全を配慮し、センサーを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回虐待防止に関する研修会を開催している。	研修をとおして高齢者虐待防止法を学び、高齢者虐待に関する理解に努めている。不適切な言葉遣いやケアについては、管理者が指導するなどしている。職員のストレス軽減の取り組みとして、リーダーとの面談や管理者にいつでも相談できる環境づくりに努め、法人でストレスチェックも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別学びの機会は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かく確認をした上で、契約を締結している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しているが、現時点で記入者はいない。	コロナ禍により家族と利用者の面会が制限され、来訪時に家族からの意見や要望を聞く機会が少なくなった。ケアプラン作成時には電話でヒアリングを行い、その折に意見や要望を聞いたり、日用品を届けに来た際に聞くなどしている。毎月、利用者の様子は写真入りのお便りで伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定例会議、定期面談等、意見を主張できる場があり、反映に努めている。	職員の意見や要望は、毎月の全体会議やユニット会議、年2回の面談で聞く機会を設けている。休憩室の設置について要望が出され、廊下のスペースの一面を利用し作ることを検討している。利用者の「〇〇したい」を聞きのがさず、日々のミーティングの場で情報共有し、実現できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、整備を進めている。 代表者は管理者以下従業員の職場環境にも関心を持ち、改善提案がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外での研修に積極的に参加できる仕組みがある。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内研修やインターネットの活用を通して、交流機会がある。	法人全体で新任職員の研修や介護研修、階層別研修等を、リモートを使用したり感染予防を徹底し合同で行い交流を図っている。インターネットを活用し、各事業所が「一週間の運営状況報告」を行い、事業所間での情報共有が行われている。毎年開催している社内行事「感謝のつどい」が今年度は開催できず、カタログギフトがプレゼントされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の時点で可能な範囲で確認をする。利用初期は特に細かい観察、確認をしながら、安心して頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用初期は施設側から連絡を密にし、不安点だけでなく安心点も含めて報告ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議には役員も加わり、生活歴にも細かく触れて生活の質が向上するようなサービスを提供できるような段取りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との関係性においては、適度な関係性が保てるよう、必要に応じて指摘をしながら関係作りに務めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを察しながらも、施設だけでのケアにならないよう普段からの状況報告に努めている。必要時には相談をしながら一緒にケアを考えることもしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、一旦関係性が途絶えてしまっている。 近隣サロン。	面会は、一時条件付きで実施したこともあったが、現在は中止している。テレビ電話で面会できるよう支援している。「秋の味覚を楽しむ」として、利用者が柿やリンゴの絵をハガキに描き家族に送ったところ、喜んで電話をかけて来た家族もいた。今後の行事企画に絵ハガキ作りも入れることにした。訪問理・美容は、感染予防に考慮し条件付きで行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極めながらの席替えも含め、常に考えながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、家族の心情を案じる言葉をかけるよう心掛けた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者だけではなく、全員で実践に努めている。	意向の把握は入浴時や居室で一對一になったときの会話から行うことが多く、ケアに繋がっている。食べものに関する要望は、メニューやおやつに反映させている。把握が困難な利用者については、家族からの情報や生活歴、表情や仕草から思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時の確認と、生活のなかで見えてきた時の確認を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の確認を通し、ミーティング等で共有しながら把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向確認についてはコロナ禍で電話でのみとなったが、意見は概ね伺いながら作成できている。	基本情報やアセスメントを基に、利用者、家族が望む介護計画を作成している。毎月、ユニットのケアカンファレンスでモニタリングを行い反映させている。介護計画は3ヶ月に1回、利用者、家族、医師、看護師の意見も聞き見直しを行い、郵送にて家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍において、柔軟な支援は十分とは言えない。法人内他事業所の機能訓練指導員に専門的な意見を伺って取り入れる程度は実施できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、実践できなかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新しい医療機関の受診については、十分にご理解を頂いた上で仲介をしている。	多くの利用者のかかりつけ医は協力医療機関で、月2回の訪問診療を受けている。通院は、家族付き添いが基本で、ホームでの様子を家族と医師に書面で渡し、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は看護師の職員が内容を記録し、職員間で情報共有している。協力歯科医の訪問診療も受診できる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼やミーティングの時間も含め、協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを作成し、退院前にはかならずカンファレンスの開催を依頼するなど、情報共有に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で看取りの指針は説明し、重度化が見えてきた段階では、状況を細かく伝え、最終的にはDrとのムンテラの場を設けて同席したうえで、終末期に向けたケアを検討している。	入居時に「看取りに関する指針」について説明している。重度化した場合には、医師が家族に説明し、終末期ケアについて関係者で話し合い、同意書を交わしている。入院や特別養護老人ホームへの入所の選択肢についても説明している。看取りの実績があり、協力医療機関、訪問看護ステーションとの連携もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	見込まれる急変があれば都度職員に指導をして備えたり、定期で座学勉強会を開いたりするが、定期での実践的訓練は行っていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は実施しているが、コロナ禍において地域住民との共同訓練はできなかった。	火災、風水害、地震マニュアルが作成されている。避難訓練は年2回実施し、内1回は地域合同の避難訓練を行っていたが、コロナ禍で訓練はできなかった。設備点検は、年1回業者が行い、非常用食料の備蓄は3日分ある。コロナ感染対策として「感染症予防マニュアル」とともに「コロナ予防職員の動き」「施設消毒のタイミング」が文書化され、感染予防に徹底し努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切ではない言葉かけがあった際には注意することで改善につながっている。	年1回、接遇やプライバシー保護の研修を行い、不適切な言葉掛けやケアについては、職員間で声掛けし改善に努めている。入室の際はノックと声掛けを行い、排泄介助時もさりげなく声掛けするなど羞恥心に十分配慮して支援している。呼び名は名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に確認することを意識し、自己決定や自立支援をフォローしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に心掛けているが、実践できないこともあり、振り返りながら改善につなげている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を尊重した支援を心掛けている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している。	メニューはユニット毎に食事委員が作成し、材料はネット宅配を利用している。調理は、利用者と職員と一緒にっており、盛り付けや配膳、お茶出し、食器拭きや後片付けなど、一人ひとりができることを楽しく行っている。3ヶ月に1回、法人の管理栄養士がアドバイスを行っている。行事食のメニューは利用者と職員が話し合いで決め、セレクトできるメニューもあり、みんなで食事を楽しむ工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。BMIも測りながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	人によって毎食ではないが、職員が確認をしながら清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗することのある方は定期的にトイレへお誘いするなどのケアを行なっている。	排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間も利用者一人ひとりの状態に合わせ、ADLが低下している利用者には安全を考慮しセンサーを導入している。便秘対策には、乳製品や食物繊維、水分を十分摂るなどして対応している。便秘気味の利用者については看護師に相談し、医師の処方薬を服用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	敬遠がある際には入浴日や時間を変更するなど、入浴は楽しい時間になるように努めている。	入浴は週2～3回を基本とし、希望により回数を増やし支援している。湯は必要に応じて交換し、好みの湯加減で入浴できるようにしている。入浴剤や季節に合わせたゆず湯などでも楽しんでいる。入浴拒否の利用者には、タイミングを見て声がけするなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要でも、寂しさを訴える方にはリビングのソファで休める環境を作るなど、休息だけでなく安心にもつながるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現状の服薬一覧表を作成するなど、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出支援は十分ではなかったが、個々の嗜好に合わせた活動や役割を生活の中に取り入れている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、十分な実施はできなかったが、希望の方には敷地内の外気浴を提供した。	例年は、年間計画を立て初詣や花見、七夕や紅葉狩り、ホテルでの食事会などを楽しんでいた。福祉車両を使い車いすの利用者も一緒に出掛けていた。コロナ禍で外出を自粛しているが、以前出かけた場所にドライブに行き、車の中から景色を見ることでストレスの緩和に繋げている。また、敷地内を散歩するなどして気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍において、お金をつかう場面はなかった。所持を希望している方もいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援と、絵手紙の発送を行なった。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間帯に2Fの物音で起きてしまう場面もあるが、大きな物音が立たないように工夫をしている。	ホールは明るく広々としている。利用者が思い思いの場所で過ごすことができるよう、ソファも設けられている。廊下にもイスを置いている。時計や手作りの日めくりカレンダーが見やすい場所にあり、季節の作品や行事の写真、絵葉書が飾られている。温・湿度は職員が管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席だけではなく二人掛けソファが二つあるため、選択することができる。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で使い慣れたものを持参して頂き、家族の写真や活動の写真、制作物の飾りなどで居心地のよい空間作りに務めている。	居室にはエアコン、カーテン、電動ベッド、火災報知器、スプリンクラーが設置されており、ベッドは持ち込むこともできる。利用者はテレビ、タンス、イス、位牌や遺影等を持ち込んだり、行事の写真や、手作り作品を飾ったり、一人ひとり居心地の良い空間にしている。月1回、居室担当者が利用者と一緒に整理整頓を行い、毎日職員が掃除を行い清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物を置く場所の検討や、狭すぎる空間を作らないなどの工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500480		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス八乙女 ユニット:たんぼぼ		
所在地	宮城県仙台市泉区八乙女中央3丁目9-23		
自己評価作成日	令和2年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットの理念 1、尊敬と感謝の心を大切に 2、利用者様の不安に寄り添う
3、皆が笑顔で過ごせる場所 を掲げています。
ワイワイにぎやかにすることを好まれる方が多く、会話交流を大切にしています。反面静かな環境を好まれる場面もあるので、状況に応じた環境作りに努めています。
食事作りに力をいれ、入居者様の趣向を聞き出しながのメニュー作りも行なっています。
行事の際にはお化粧をして頂くなど、リフレッシュできる時間の提供も心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、地下鉄八乙女駅近くの静かな住宅地にある木造2階建て2ユニットの事業所である。周辺には保育園や小学校、郵便局、ケーキ屋などがある。敷地内には法人の本社があり、同法人の他事業所と研修などとおし交流を図っている。ユニット毎に理念を掲げ、すみれユニットは「感謝する心・お一人お一人に寄り添う心・支え合えるチーム創り」、たんぼぼユニットは「尊敬と感謝の心を大切に・利用者様の不安に寄り添う・皆が笑顔で過ごせる場所」で、支援に活かしている。行事食の献立作りや、食事作りは利用者の残存能力に応じ職員と一緒にしている。運営推進会議を通じて、地域合同の防災訓練や地域ケア会議、地域サロンへの参加など、地域での支え合いの関係構築ができてい。コロナ禍でもできることを、町内会長や社協職員、地域包括職員と検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス八乙女 ）「ユニット名 たんぽぽ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で唱和し、実践に努めている。	理念を年度末に振り返り、次年度に活かしている。毎朝ミーティングで唱和し、日々の実践の中で、感謝の言葉を伝え、人生の先輩として尊敬をもってケアに取り組んでいる。理念を念頭に、利用者、家族が望むケアプランを作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域との関わりは作れなかった。	町内会に加入し、社協が主催する地域サロンに参加したり、台風被害の際には、近隣の民家の片づけなどに協力した。コロナ禍で交流は限られているが、ハロウインの時に、保育園児が仮装し来訪してくれ、利用者や職員も一緒に仮装し、駐車場で交流することができた。また、地域の「健康まつり」の準備に関わり、リモートで参加した。	地域の中で、認知症介護のプロとして地域貢献することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、地域との関わりは作れなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、集合形式での推進会議は開催できなかったが、アンケートを通して意見を収集し、サービスの向上に活かせるよう心掛けた。	会議は、年間計画を基に奇数月に年6回、町内会長、地域包括職員、社協職員、利用者、家族、ホーム職員が参加し開催していた。3月以降は委員に資料を送付し意見を聞いている。参加者からアンケートを取り、リモート会議などを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適切に運営できるよう、運営において不明な点は都度仙台市に確認をとった。	地域包括職員が運営推進会議に参加しており、現在は会議資料をとおして情報提供している。市には随時、運営上の不明な点などを相談している。市から感染対策に関する動画配信での研修案内があり、参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要事例が発生した際は仙台市に確認をした上で、身体拘束適正化委員会で振り返りを行ないながら運営した。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催している。ユニット毎に課題を出し合い、検討シートを基に全職員で話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。外出要求が強い利用者には、職員が同行し庭に出て外気浴などをして気分転換をしている。玄関の施錠は21時から翌朝5時までで、日中は利用者の安全を配慮し、センサーを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回虐待防止に関する研修会を開催している。	研修をとおして高齢者虐待防止法を学び、高齢者虐待に関する理解に努めている。不適切な言葉遣いやケアについては、管理者が指導するなどしている。職員のストレス軽減の取り組みとして、リーダーとの面談や管理者にいつでも相談できる環境づくりに努め、法人でストレスチェックも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別学びの機会は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かく確認をした上で、契約を締結している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しているが、現時点で記入者はいない。	コロナ禍により家族と利用者の面会が制限され、来訪時に家族からの意見や要望を聞く機会が少なくなった。ケアプラン作成時には電話でヒアリングを行い、その折に意見や要望を聞いたり、日用品を届けに来た際に聞くなどしている。毎月、利用者の様子は写真入りのお便りで伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定例会議、定期面談等、意見を主張できる場があり、反映に努めている。	職員の意見や要望は、毎月の全体会議やユニット会議、年2回の面談で聞く機会を設けている。休憩室の設置について要望が出され、廊下のスペースの一面を利用し作ることを検討している。利用者の「〇〇したい」を聞きのがさず、日々のミーティングの場で情報共有し、実現できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、整備を進めている。 代表者は管理者以下従業員の職場環境にも関心を持ち、改善提案がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外での研修に積極的に参加できる仕組みがある。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内研修やインターネットの活用を通して、交流機会がある。	法人全体で新任職員の研修や介護研修、階層別研修等を、リモートを使用したり感染予防を徹底し合同で行い交流を図っている。インターネットを活用し、各事業所が「一週間の運営状況報告」を行い、事業所間での情報共有が行われている。毎年開催している社内行事「感謝のつどい」が今年度は開催できず、カタログギフトがプレゼントされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の時点で可能な範囲で確認をする。利用初期は特に細かい観察、確認をしながら、安心して頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用初期は施設側から連絡を密にし、不安点だけでなく安心点も含めて報告ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議には役員も加わり、生活歴にも細かく触れて生活の質が向上するようなサービスを提供できるような段取りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との関係性においては、適度な関係性が保てるよう、必要に応じて指摘をしながら関係作りに務めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを察しながらも、施設だけでのケアにならないよう普段からの状況報告に努めている。必要時には相談をしながら一緒にケアを考えることもしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、一旦関係性が途絶えてしまっている。 近隣サロンや美容院など。	面会は、一時条件付きで実施したこともあったが、現在は中止している。テレビ電話で面会できるよう支援している。「秋の味覚を楽しむ」として、利用者が柿やリンゴの絵をハガキに描き家族に送ったところ、喜んで電話をかけて来た家族もいた。今後の行事企画に絵ハガキ作りも入れることにした。訪問理・美容は、感染予防に考慮し条件付きで行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極めながらの席替えも含め、常に考えながら支援している。 少人数での交流の方がご本人らしく生活できる方については、二人席を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、家族の心情を案じる言葉をかけるよう心掛けていますが、今期は契約終了の実績はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者だけではなく、全員で実践に努めている。	意向の把握は入浴時や居室で一對一になったときの会話から行うことが多く、ケアに繋がっている。食べものに関する要望は、メニューやおやつに反映させている。把握が困難な利用者については、家族からの情報や生活歴、表情や仕草から思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時の確認と、生活のなかで見えてきた時の確認を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の確認を通し、ミーティング等で共有しながら把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向確認についてはコロナ禍で電話でのみとなったが、意見は概ね伺いながら作成できている。提案もあるが、相談して一緒に考えることが多かった。	基本情報やアセスメントを基に、利用者、家族が望む介護計画を作成している。毎月、ユニットのケアカンファレンスでモニタリングを行い反映させている。介護計画は3ヶ月に1回、利用者、家族、医師、看護師の意見も聞き見直しを行い、郵送にて家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍において、柔軟な支援は十分とは言えない。コロナの状況を見て、訪問マッサージは再開している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、実践できなかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新しい医療機関の受診については、十分にご理解を頂いた上で仲介をしている。	多くの利用者のかかりつけ医は協力医療機関で、月2回の訪問診療を受けている。通院は、家族付き添いが基本で、ホームでの様子を家族と医師に書面で渡し、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は看護師の職員が内容を記録し、職員間で情報共有している。協力歯科医の訪問診療も受診できる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼やミーティングの時間も含め、協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを作成し、退院前にはかならずカンファレンスの開催を依頼するなど、情報共有に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で看取りの指針は説明し、重度化が見えてきた段階では、状況を細かく伝え、最終的にはDrとのムンテラの場を設けて同席したうえで、終末期に向けたケアを検討する流れがある。	入居時に「看取りに関する指針」について説明している。重度化した場合には、医師が家族に説明し、終末期ケアについて関係者で話し合い、同意書を交わしている。入院や特別養護老人ホームへの入所の選択肢についても説明している。看取りの実績があり、協力医療機関、訪問看護ステーションとの連携もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	見込まれる急変があれば都度職員に指導をして備えたり、定期で座学勉強会を開いたりするが、定期での実践的訓練は行っていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は実施しているが、コロナ禍において地域住民との共同訓練はできなかった。	火災、風水害、地震マニュアルが作成されている。避難訓練は年2回実施し、内1回は地域合同の避難訓練を行っていたが、コロナ禍で訓練はできなかった。設備点検は、年1回業者が行い、非常用食料の備蓄は3日分ある。コロナ感染対策として「感染症予防マニュアル」とともに「コロナ予防職員の動き」「施設消毒のタイミング」が文書化され、感染予防に徹底し努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切ではない言葉かけがあった際にはリーダー職を通して注意することで改善につながっている。	年1回、接遇やプライバシー保護の研修を行い、不適切な言葉掛けやケアについては、職員間で声掛けし改善に努めている。入室の際はノックと声掛けを行い、排泄介助時もさりげなく声掛けするなど羞恥心に十分配慮して支援している。呼び名は名前に「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に確認することを意識し、自己決定や自立支援をフォローしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に心掛けているが、実践できないこともあり、振り返りながら改善につなげている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を尊重した支援を心掛けている。行事の際には化粧をしたり、浴衣を着たりするなどして、おしゃれを楽しんで頂く機会も設けている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している。	メニューはユニット毎に食事委員が作成し、材料はネット宅配を利用している。調理は、利用者と職員と一緒にっており、盛り付けや配膳、お茶出し、食器拭きや後片付けなど、一人ひとりができることを楽しく行っている。3ヶ月に1回、法人の管理栄養士がアドバイスを行っている。行事食のメニューは利用者と職員が話し合いで決め、セレクトできるメニューもあり、みんなで食事を楽しむ工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。BMIも測りながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食職員が声掛けをしながら実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗することのある方は定期的にトイレへお誘いするなどのケアを行なっている。	排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間も利用者一人ひとりの状態に合わせ、ADLが低下している利用者には安全を考慮しセンサーを導入している。便秘対策には、乳製品や食物繊維、水分を十分摂るなどして対応している。便秘気味の利用者については看護師に相談し、医師の処方薬を服用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	敬遠がある際には入浴日や時間を変更するなど、入浴は楽しい時間になるように努めている。	入浴は週2～3回を基本とし、希望により回数を増やし支援している。湯は必要に応じて交換し、好みの湯加減で入浴できるようにしている。入浴剤や季節に合わせたゆず湯などでも楽しんでいる。入浴拒否の利用者には、タイミングを見て声がけするなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の必要についてははDrにも報告相談することもある。精神面と体力両方への配慮を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現状の服薬一覧表を作成するなど、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出支援は十分ではなかったが、個々の嗜好に合わせた活動や役割を生活の中に取り入れている。特に家事支援に力を入れている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、十分な実施はできなかったが、希望の方には敷地内の外気浴を提供した。	例年は、年間計画を立て初詣や花見、七夕や紅葉狩り、ホテルでの食事会などを楽しんでいた。福祉車両を使い車いすの利用者も一緒に出掛けていた。コロナ禍で外出を自粛しているが、以前出かけた場所にドライブに行き、車の中から景色を見ることでストレスの緩和に繋げている。また、敷地内を散歩するなどして気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍において、お金をつかう場面はなかった。所持を希望している方もいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援と、年賀状の発送を行なった。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の申し送りの声量には特に気を付けている。	ホールは明るく広々としている。利用者が思い思いの場所で過ごすことができるよう、ソファも設けられている。廊下にもイスを置いている。時計や手作りの日めくりカレンダーが見やすい場所にあり、季節の作品や行事の写真、絵葉書が飾られている。温・湿度は職員が管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフ同席のもとで、入居者様の居室に数名お連れして談笑する時間も提供した。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で使い慣れたものを持参して頂き、家族の写真や活動の写真、制作物の飾りなどで居心地のよい空間作りに務めている。	居室にはエアコン、カーテン、電動ベッド、火災報知器、スプリンクラーが設置されており、ベッドは持ち込むこともできる。利用者はテレビ、タンス、イス、位牌や遺影等を持ち込んだり、行事の写真や、手作り作品を飾ったり、一人ひとり居心地の良い空間にしている。月1回、居室担当者が利用者と一緒に整理整頓を行い、毎日職員が掃除を行い清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物を置く場所の検討や、狭すぎる空間を作らないなどの工夫をしている。		